南部パラグアイ移住地概況

昭和51年8月1日現在

JICA
708
23.4
AC
LIBRARY

南部パラグァイ移住地概況

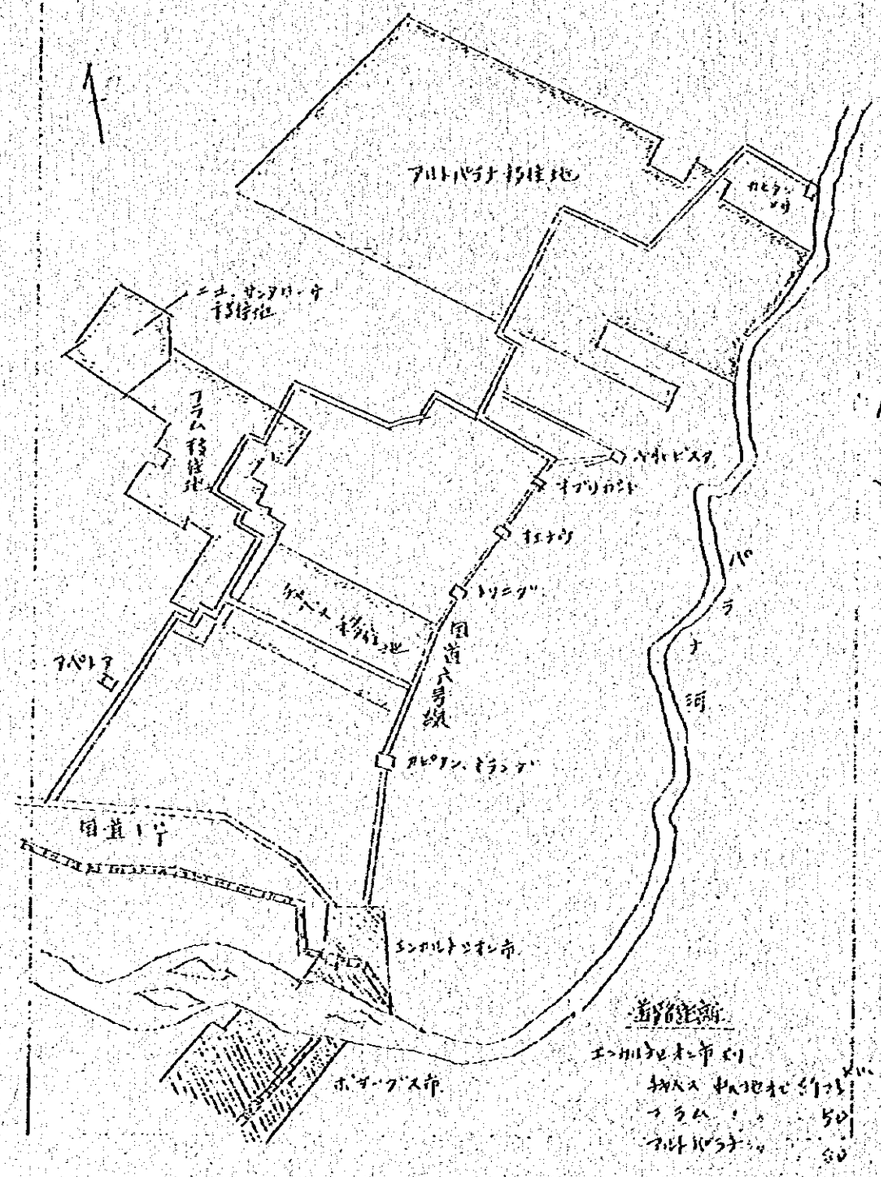
昭和51年8月1日現在

JICA LIBRARY
1028808[2]

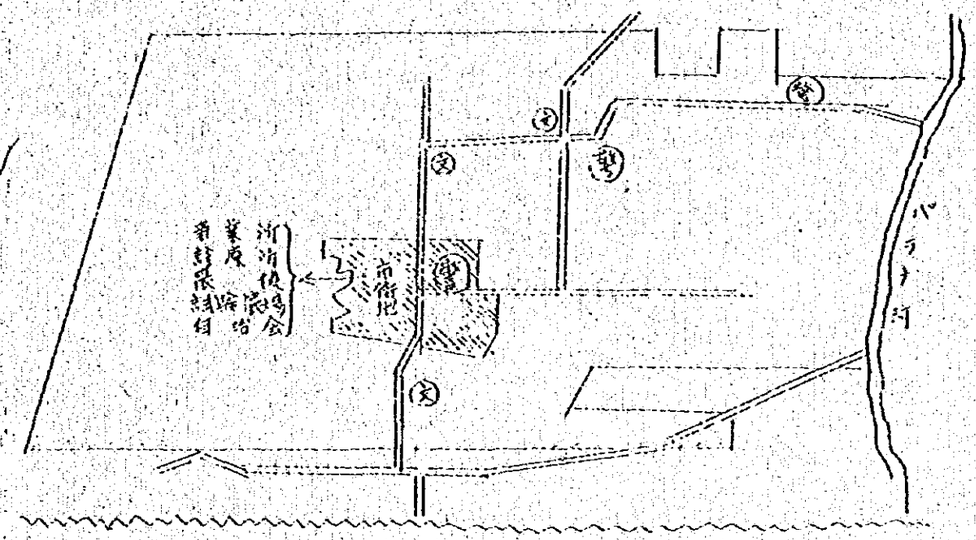
国際協力事業団，アスンシオン事務所
エンカルナシオン支所

国際協力事業団
受入月日 '85. 3. 27
登録No. 11322
708
234
AC

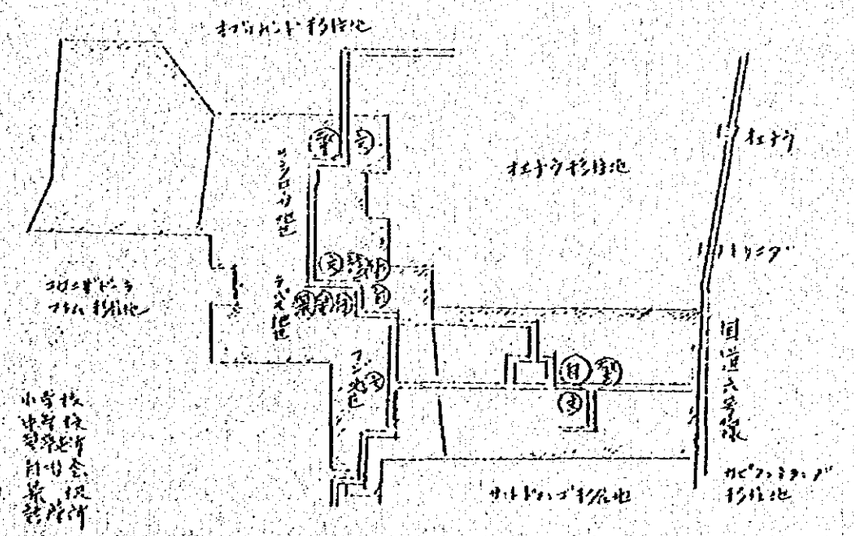
イタプア県内日本人移住地概念図



(1) アルトパラナ移住地



(2) コラム、チバベス移住地



2. 移住地概要

1. アルトパラナ移住地

ア. 所在地 及び 管理者

イタプア県エンカルナシオン市の東北 約80～100Kmに位置し パラナ河岸に南北 約20Km [illegible] 東西 40Km の間に広がり 総面積 84,217 ha 、国際協力事業団の直轄移住地

イ. 入植の経緯

1959年4月から 1961年5月までの間に当事業団の前身である日本海外移住振興KK. が購入し 1960年8月2日 第1陣26家族が到着, 入植が開始された. その後 海外移住事業団 国際協力事業団に引き継ぎ現在に至っている。 最近になって 移住地の発展に伴い血縁の ブラジル人 ファベス移住地, 外国人の入植希望が多くなってきた。

ウ. 自然条件

大陸性亜熱帯気候, 乾季明瞭, 暑期 12月～2月, 寒期 6～8月, 降霜は年間 7～15日, 年間雨量は 2,000 mm程度, 1日の気温差 著しく 10℃～15℃に及ぶことがある, 平均標高は 220 m

土質は玄武岩を母材とする赤色ラテライト土壌でテーラロッシャといわれる。 PH 5～6程度, 肥沃で作物収穫は殆んど無肥料で行われている。

エ. 社会条件

a. 教育

地区内に小学校が 3 校あり 教師は 連邦国文部省より派遣されている, カトリック教会経営の幼稚園が市街地にある. 中学校はブジム中学 オブリガードの中学 または エンカルナシオン市内の中学に進学している, 日語小学校 4校, 日語中学校が 1 校あり各々 週 1 へつ回 開校されている。

b. 医療

市街地に当国直営のアルトパラナ診療所があり 医師2名 (現在1名欠員), 看護婦5名が配置されている。 ベット数は 11, 大型レントゲン, 手術室を備え中規模の外科は可能である。

c. 交通

エンカルナシオン市～トリンフォ港間の国道6号が移住地を貫通しており このうち 工市～移住地間のアスファルト舗装工事が ブラジル大 統領により 1976年1月から着工された, 工期 800日間, 移住地内の幹支線道路延長は約460Kmあり 事業団と自治会管理のひと

比較的良好に整備されている。域内に小型旅行場があるが 定期便はない。

d. 通 信

市街地に ANTELCO ピラポ局があり 地区内電話は 34台，日本はが国際電話可能。

e. 治 安

ピラポ警察署（士官 1名，兵士 6名）及び 同派出所（下士官 1名，兵士 6名）が 2ヶ所ある。

予審判事事務所が市街地にあり 判事 1名，書記 1名 が常駐している。

f 宗 教

カトリック教会 及び プロテスタント教会があり 各々 日本人の神父，牧師が派遣されている。

その他 天理教，創価学会，PL教団等が活動している。

オ. 営農状況

内陸低開発国という立地条件から 永らく基幹作物の模索が続けられてきたが 現在は大規模畑作、特に裏作に小麦を組合せた大豆栽培が主流となり 圃場整備，農機具の改善 これを指向して進められつつある。 また養蚕も盛んに行なわれている。 近年 先行投資気味に機械化が進められてきたため 全体的な資金繰りが 苦しくなり 1975年10月 ピラポ農協が大幅赤字に 陥ち 国立開発銀行（B.N.F）から 2億6千5百万グラニーの大型融資を受けた。

カ. 移住者の組織

a. アルトパラナ移住地振興委員会

移住地の総合開発計画を立案，検討 実施するため 1974年2月 自治会長，同助役，同事務局長，自治会議長，ピラポ農協組合長，同参事を 構成員として設立された。

b. ピラポ日本人自治会

1967年4月設立，日本人全世帯が加入 会長（現在は藤森証志）の下に常勤職員が3名いる。

アルトパラナ移住地は ペドロ・ピスタ 市に属するが 自治会が準役場（JUNTA PARROQUIAL）の認定を受け 事実上 村役場の機能を果している。

1976年度予算は 6,720,599 グラニーである。 傘下に ピラポ連合婦人会，ピラポ連合青年団，ピラポ体育連盟がある。

c. ピラポ農業協同組合

設立 1960年8月，1974年11月法定組合として認可された。 組合員数は 243人。 現組合長は 水本春雄， 常勤職員 16名，信用，販売 運輸，重機利用，養蚕，購買の各事業を行っている。

組合員が技術化と経営規模の拡大を急ぐあまり　農協の信用事業の範囲内での経営では満足せず　国立勧業銀行，市中銀行　及び一般商社等から直接　資金及び技術の導入を計ってきたため　財政基盤が著しく脆弱になり　前述のとおり　国立勧業銀行から大型融資を導入した。

フラム農協とともに　イタプア農業協同組合中央会を構成している。　域内5ヶ所に　支所（実行組合）を置く。

α　アカカラジャ農産業協同組合

設立　1967年，　組合員数　20，　常勤職員　なし

(2) フラム移住地

ア．所在地　及び　管理者

パラグアイ国イタプア県カルメン・デ・パラナ郡フラム移住地，　総面積　16,056 ha，　国際協力事業団の直轄移住地

エンカルナシオン市　北，約35KMに位置している。

イ．入植の経緯

1956年に　日伯移住振興（株）が　フラム土地会社の所有していた約8万haの　植民地の一部を購入開設した。

日本人の入植は1955　年に　フラム土地会社の分譲地に6家族が入植したのが始まりである。　土地購入後　直営で移住者受入れに当ったが　1960年頃には　日ぼ　満植状態となり　後続移住者は　アルトパラナ移住地に引き継がれた。　本移住地には広島県沼隈町の分村移住（1956年），高知県大正町等の集団移住（1957年）が行われている。

ウ．自然条件

大陸性亜熱帯気候，乾雨期不明瞭，平均気温は　22℃，　12～2月が夏　6～8月が　冬期で　マイナス4℃～5℃を記録することもある。

部分的に降霜，雹があり，年間雨量は2000mm程度である。　標高は180～200mの比較的起伏に富んだ波状形地を呈する。

土質は　テーラロッシャとよばれる玄武岩を母材とする赤色ラテライト土壌で　極めて肥沃であるが　低地　傾斜地には岩が露出しているところもある。

P.H. 5.5程度の弱酸性である。

エ．社会条件

α　教育

地区内は　フジ地区，　ラパス地区　及び　サンタローサ地区に大別され　それぞれ　邦語小学校を有する。　中学校は　創設日系移住地内唯一の　フラム中学校が　ラパス地区にあり　全寮制で授業が行われている。　又，課外に日語講座が開設されており　ユニークな存在と成っている。

日語小学校は　地区毎に週1回開校されている。　ラパス地区には　カトリック教会の経営する幼稚園がある。

b. 医 療

ラパス市街地内に当団直営のフラム診療所があり 日本からの派遣医師が常駐しているが 現在は欠員となっており オエノ戦争病院の医師(現地)が週2回出張診療に当っている。 また 週1回 エンカルナシオン市から当団嘱託の歯科医が出張診療している。

c. 交 通

エンカルナシオン市から 1日4便の定期往復バスがあるほか 自家用車による。 域内道路は 当事業団の造成工事終了後(1962年)全ての維持 管理を入植者組合で行なわれている関係上 幹、支線とも整備されていない。 1976年度より 5ヶ年計画で当事業団直営による主要幹線の砂利舗装工事に着手している。

d. 通 信

ラパス市街地に ANTELCO(電話局があり 域内加入電話は 20台, 長距離電話 国際電話も可能である。

手紙は エンカルナシオン郵便局の私書函を利用している。

e 治 安

フジ、ラパス、サンタローサの各地区に 士官 1名, 兵士 4名からなる警察官が設置されており 域内の治安業務に当っている。

また ラパス地区には判事々務所があり予審判事が常駐している。

f 宗 教

カトリック教会 , 天理教 , 創価学会 PL教団が主である。

オ 営農状況

大豆 小麦等の穀作 並びに養蚕が主体となっている。 近年 機械化が進み 生産性は向上したが 周辺の増反余地に乏しいことが大きな悩みとなっている。 増反の方法としては 既入植者の転出跡地を取得するほかにないため 今後の営農規模拡大は あまり期待できない。 このため アルトパラナ移住地への転出、三男独立入植が進められている。

カ. 移住者の組織

a フラム自治会

フラム移住地の行政区は フラム町役場(アペレ地区)管内であるが 実質的には村政を代行している。

1975年11月 フラム自治会が 準役場(JUNTA PARROQUIAL)として 町役場から権限移譲を受けたため 域内税収入の50%が 地元に還付されることになった。 執行機関として 会長(現会長は 陰地 定)の下に 事務員 3名、 議会に代わるものとして 評議員会があり 各地区から

議員が選出されている。1976年度予算は4451.643カラニーである。傘下に婦人会、青年団等がある。

b. フラム農業協同組合

設立は1970年9月10日、組合員数は204人、既存のフジ、ラパス、サンタローサ、チャペスの4農協を合併(現組合長は国田 清)

職員職員21名、総務、販売、購買、信用、利用(コ)の6部からなり、信用、販売、購買、利用、指導、共済の各事業を行っている。

1975年度より第2次営農指導5ヶ年計画を策定し、組合員農家、特に低位農家の経営改善を目ざし、強力な指導体制を整えている。ピラポ農協とともに、イタプア農業協同組合中央会を構成している。傘下にフジ、ラパス、サンタローサ地区及び域外のチャペス地区に実行組合がある。

(3) チャペス移住地

ア. 所在地、区域、管理者

エンカルナシオン市の東北18Kmに位置、フラム移住地と隣接し、総面積約80,000ha、うち日本人入植地約5,500ha

パラグアイ農牧開発公社(I.B.R)の管理下にある内国移住地である。

イ. 入植の経緯

1952年、ブラジル拓植組合(ブラ拓)が戦前移住地ラ.コルメーナに120家族の導入枠を獲得したが、同移住地には受入余地がなかったため、これが打開策として「日伯拓植組合」を設立し、ブラ拓とは別途に120家族の受入許可をとりつけた。この結果、1953年から1956年にかけて110家族が入植した。第1陣は1953年ラ.コルメーナ移住地から戦前移住者8家族が、転入植したのが始まりとある。

ウ. 自然条件

大陸性亜熱帯気候、乾湿期不明瞭、平均気温は21°C台である。冬期は部分的に降霜を見ることがあり、時に雪も降る。年間降雨は2,000mm程度。

標高は190m、土質はテーラロッサといわれる赤褐色粘土土壌(P.H 5.5程度)が大部分を覆っているが、他地、傾地では岩が露出している。

エ. 社会的条件

a. 教育

小学校が域内に2校ある。中学校はフラム中学または、エンカルナシオン市内、ドイツ人移住地内中学校(オブリガード)を利用している。

日語小学校は邦人組織のチャペス日本人会により、週1回開講されている。

b. 医療

フラム診療所、ドイツ人移住地内診療所(カピタンミランダ)、エンカルナシオン市内病院を利用している。

c. 交通

エンカルナシオン市から陸路約20Kmで、国道6号線入口までは良好であるが、域内道路は未だ整備されていない。1976年度より5ヶ年計画に

当事業団直営による精選加工装置が着工される予定になっている。

d. 通信

日本人会事務所（兼フラム農協チャベス支所）に電話がある。手紙はエンカルナシオン郵便局の私書函を利用している。

e. 公安

日本人居住地域に警察駐在所があり 1常1名 外3名が常駐しており治安業務に当っている。

オ. 営農状況

フラム移住地と同じく 大豆、小麦 養蚕が主であるが 育苗資料から 養鶏 蔬菜も盛んで エンカルナシオン市へ出荷している。

当初の配耕面積が20haにすぎず すぐに満杯となったため比較的経営面積が少ないが（75戸 1戸平均 70ha保有） 隣人個有の転出跡地を取得したり 周辺パ国人の土地を買増ししたりして営農規模の拡大を計っている。

カ. 移住者の組織

a. チャベス日本人自治会

カピタン ミランダ町役場の行政区内にあるが フラム アルトパラナと異なり 日伯混住地がないため町政代行業務は少ない。また 域内道路の整備 日語学校の運営、婦人 町役場との連絡調整 各種記念行事の主催等が活動内容である。 現会長は 井沢 栄男、1976年度の予算規模 569,320ガラニー。

傘下に 婦人会、青年部がある。

b. フラム農協チャベス支所組合

現在 24名が フラム農協に加入している。

3. 資料編

(1) 事業団直轄移住地別面積、土地利用計画

1976年 3月1日現在 (単位：ha)

区分 / 移住地	入植地 造成地区 分譲済	入植地 造成地区 河川道路	入植地 造成地区 公共用地	入植地 造成地区 残	入植地 造成地区 小計	入植地 未造成地区	入植地 計	市街地 造成地区 分譲済	市街地 造成地区 河川道路	市街地 造成地区 公共用地	市街地 造成地区 残	市街地 造成地区 小計	総面積
アルトパラナ	45,029	1,785	20	3,201	55,050	28,260	83,310	210	254	44	369	907	84,217
ブラム	15,542	54	61	149	15,806	0	15,806	29	25	19	98	170	16,056

(2) 気候

観測地：アルトパラナ移住地

区分	1974年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
平均気温	25.4°C	26.2°C	24.1°C	15.2°C	19.2°C	14.8°C	18.3°C	18.0°C	20.6°C	20.8°C	22.9°C	25.0°C	20.9°C
絶対最高気温	34.8°C	36.0	33.3	32.0	31.2	27.5	29.1	33.5	35.9	34.0	35.5	34.7	33.1
絶対最低気温	14.3°C	17.8	14.0	6.9	7.0	-0.3	6.0	-1.0	3.0	6.5	8.5	12.5	7.9
降雨量	187.3mm	99.7	102.5	124.7	266.6	110.8	24.1	137.5	13.1	57.0	340.8	244.6	1708.7
降雨日数	14日	13	13	7	8	9	6	11	1	9	9	10	110

区分	1975年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
平均気温	24.9°C	25.4°C	24.0	20.9	19.7	17.3	15.4	18.9	20.2	20.6	23.5	25.5	21.4
絶対最高気温	35.0°C	30.4	33.7	29.9	28.7	27.6	31.0	33.8	32.6	35.0	35.0	36.0	32.4
絶対最低気温	12.9°C	20.0	14.0	5.6	5.3	-0.2	-4.5	6.2	8.2	9.0	9.5	10.8	7.9
降雨量	157.5mm	132.5	145.4	154.5	97.3	120.0	32.0	94.0	184.7	189.6	126.6	190.7	1625.8
降雨日数	11日	9	9	8	8	10	3	6	14	12	6	12	108

(3) 移住地別入植者数

1976年4月1日現在

入植地名		入植世帯数	育成対象自治体構成単位数	農家数	農業経営体数	備考
アルトパラナ	日本人	330戸(1,586人)	310戸(1,523人)	283戸(1,383人)	284戸(1,385人)	
	現地人	200 (1,000)	( )	200 (1,000)	200 (1,000)	推定数
	計	530 (2,586)	310 (1,523)	483 (2,383)	484 (2,385)	
コラム	日本人	223 (1,233)	205 (1,141)	208 (1,070)	199 (1,070)	
	現地人	23 (127)	( )	20 (111)	20 (111)	
	計	246 (1,360)	205 (1,141)	228 (1,181)	219 (1,181)	
チャベス	日本人	56 (316)	52 (300)	56 (316)	56 (316)	
	現地人	200 (1,500)	( )	200 (1,500)	200 (1,500)	日本人居住地周辺の推定数
	計	256 (1,816)	52 (300)	256 (1,816)	256 (1,816)	

(注) 非居住入植者を含む。この他 エンカルナシオン市及びその周辺に居住する日本人は 約85戸 390人である。

(4) 昭和50年度農家経営調査結果 (1974年8月1日～1975年7月31日)

ア. 一戸当りの土地利用面積

単位; ha

	耕地	耕地以外	利用可能地	所有面積	備考
アルトパラナ	55	11	62	129	事業用直営入植地
コラム	46	9	32	87	〃
チャベス	44	7	19	70	〃
平均	50	10	45	105	

4. 農家経済内訳（1戸当り平均）

項目 / 移住地名	調査戸数	耕作面積 (ha)	都地面積 (ha)	資産計 (千円)	内正味資産	農業粗収入	農業経営費	借入金利息	農業所得	農外所得	農家所得	家計費	租税公課諸負担金	農家経済余剰
アルトパラナ	223	129	55	5,738	3,357	1,897	1,062	70	564	184	948	400	18	530
フラム	187	87	46	4,793	3,307	1,733	1,017	77	632	153	785	372	14	399
チマベス	45	70	44	4,446	3,414	2,119	1,036	66	998	134	1,132	365	9	759
平均	(258)	105	50	5,226	3,343	1,850	1,041	72	735	166	901	385	15	501

ウ 農機具所有状況

項目 / 移住地名	トラクター 台数	トラクター 普及率	コンバイン 台数	コンバイン 普及率	エンジン 台数	エンジン 普及率	チェーンソー 台数	チェーンソー 普及率	脱穀機 台数	脱穀機 普及率	新形耕 台数	新形耕 普及率	動力噴霧機 台数	動力噴霧機 普及率
アルトパラナ	154	69%	24	11%	273	122%	185	83%	371	166%	101	45%	168	75
フラム	145	78	45	24	198	105	80	42	200	107	74	40	124	66
チマベス	31	65	6	13	44	92	–	–	41	85	11	23	29	60

エ. 主要作物販売状況

項目 / 移住地名	大豆 作付面積	大豆 販売量	大豆 金額	小麦 作付面積	小麦 販売量	小麦 金額	生姜 作付面積	生姜 販売量	生姜 金額	ツンゲー 作付面積	ツンゲー 販売量	ツンゲー 金額
アルトパラナ	8,188 ha	16,617 tons	323,103 US$	427 ha	433 tons	10,342 US$	2,367 箱	68 tons	17,965 US$	1,279 ha	2,147 tons	16,776 US$
フラム	6,946 ha	13,526 ha	220,293	825 ha	1,102 ha	24,856	2,487 ha	53	13,621	502	1,071	9,662
チマベス	1,345	2,677	52,944	526	833 ha	17,977	560	16 ha	4,355	202 ha	972 ha	6,475

オ. 農家所得の推移

(単位:千ペソ)

年度 / 移住地名	1970年 (昭45)	1971年 (昭46)	1972年 (昭47)	1973年 (昭48)	1974年 (昭49)	1975年 (昭50)
アルトパラナ	269	290	199	863	611	948
フラム	194.8	286	193	813	482	786
チャベス	301	240	181	537	638	1,132

(5) 交付金関係事業概要

ア. 教育

a. 邦語教育

各地に事業団補助金により校舎を建築、人員側に提供している。また、相当教師謝金を別途支給している。

地区名	項目	学校名	生徒数 日系人	現地人	計	教師数	備考
アルトパラナ	アカリラジャ23Km	ピラポポ1小学校	100	134	234	4	
	ピラポポ13Km	〃 第2小学校	49	52	101	3	
	ピラポポ22Km	〃 第3小学校	35	41	76	2	
フラム	ラパス	フラム中学校	47	5	52	4	
	サンタローサ	サンタローサ小学校	93	33	126	3	
	ラパス	ラパス小学校	65	33	98	3	
	フージ	フージ小学校	40	71	111	4	
チャベス		ニポポパラジャ小学校	38	245	283	6	
		ウルアット小学校	24	118	142	3	

b. 日語教育

移住地毎に自治会 日本人会が事業団の援助を受けて日語学校を週1～2回(多くは 土、日曜日)開校している。事業団から教師謝金を支給している他、日本よりの派遣教師1名(エンカルナシオン駐在)が巡回指導している。

移住地	学校名	生徒数	教師数	開校日	授業科目	備考
フラム	サンパウロ日語小	98	4	毎週 土曜日	国、社、理	
	ラパス 〃	45	3	〃 〃	国 理	
	フジ 〃	34	3	〃 〃	〃	
	フラム中、日語部	44	2	〃 5日間(夜)	〃	
チャベス	中央日語小	23	4	毎週 土曜日	国、理	
ポルトバラナ	第1日語小	113	6	毎週 土、日曜日	国 理	
	第2 〃	35	4	〃 日曜日	〃	
	第3 〃	51	3	〃 土曜日	〃	
	市街地 〃	47	3	〃	国、情操	
	アルトパラナ日語中	30	3	〃 月曜日(夜間	国、社、他	

c. 高校卒業

中学生、高校生を対象として 月謝、寄宿費、交通費等を支給している。本年度より大学生に対する 奨学資金の貸付けを行う予定。
(昭和50年度)

地区別	区分	支給状況		備考
		人数	金額	
フラム、チャベス	中学生	41	Cr$ 1188,585	
	高校生	6	60,210	
アルトパラナ	中学生	28	311,724	
	高校生	7	16,900	

4. 医療

昭和50年度診療所別診療件数

診療所名	診療件数			備考
	外来	入院	計	
プラム	1865	265	2130	派遣医師 1名 エンカルハ土地特約医 2名(歯科、外科)
フルトバラナ	4.184	939	5.123	派遣医師 1名、現地医師 1名、

(注) 診療件数のうち 日系人と現地人との割合は おおよそ 4対6 である。

5. その他

a. 治安謝金(警察謝金、判事、書記謝金)、農協助成金、自治体育成費の支給

b 生活改善事業として 健康診断、予防接種等を実施する他 各地区毎に婦人学級を開催し 一部 運営費を助成している。また 地域婦人スポーツ活動を通じ 明るい移住地造りが行われている。

c. 近年 各移住地は人力による営農形態から農業機械の導入による合理的な農業経営形態に移行しつつある。機械化には若干 耕地の整理化が必要であり 民間ベースの大型機械の導入が要望される。そこで 本年用では「南部パラグアイ営農改善特別対策」として ブルドーザ、トラクター等を交付金にて供与し各農協の機械利用組織を中心として耕地の整理化が進められている。

イタプア地区農業協同組合の概要

項目 ＼ 農協名	イタプア農協中央会(法定)	ピラポ農協(法定)	プラム農協(法定)
組合員数	—	243	204
役員数	6	16	21
業務内容	販売 加工 斡旋	販売、購売、信用 運輸 指導 利用	販売 購売 信用、運輸、指導 利用
出資金(うち払込出資金)	50.000 千Gs (14.830 千Gs)	72.900 千Gs (39.459 千Gs)	61.200 千Gs (30.653 千Gs)
1976年度農産物販売高	637 985 千Gs	354.745 千Gs	281.018 千Gs

(c) 出資金関係事業概要

ア. 入植地事業

事業団の直営入植地であるアルトパラナ，フラム両移住地においては 夫々 購入した土地に道路をつけ測量によって 大口 大型及び小型の三種類のロッテ（アルトパラナは大口 300 ha，大型 60 ha 小型 30 ha ，フラムは 25 ha）に分割し造成を行っている。このロッテを入植者に一括あるいは分割払いの方法によって譲渡し 土地分譲契約 地券の交給を行っている。

1975年3月1日現在

		総面積	造成済面積	未造成面積	総造成数	総譲渡数	残ロッテ数	価格			単位面積
								一括払	分割払		
アルトパラナ	農耕地	84,217	55,050	29,167	1,201	1,087	114	350,000円	539,000円	(頭金 35,000円 9年総額5年払)	30 ha
	市街地				259	165	94	53,572	57,591	(前住一等地，5年均等払)	2,540 m²
フラム	農耕地	16,763	16,056	0	106	99	7	156,500	202,164	〃地	30 ha
	市街地				75	22	53	54,126	58,183	5年均等（前住1等地）	2,500 m²

イ. 特殊事業

エンカルナシオン市に倉庫を建設し賃貸を行っている。

ウ. 融資事業

事業団の融資は 毎年その総額（貸付枠）が定められ ドル建融資が行われている。同時に回収も定められた期限に行われる。長期（1年半 ～ 8年）短期（1年半以内）別 及び個人融資（1戸当り 300 万円以内）と団体融資（5,000 万円以内）の別がある。

（単位：US $）

	昭和50年度貸付実績						昭和50年度末貸付残高					
	短期		長期		合計		短期		長期		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
アルトパラナ			28	89,296	28	89,296	13	2,360.32	738	859,701.94	751	862,062.35
フラム			19	84,294	19	84,294	3	1,065	455	571,272.32	458	572,337.32
チメベス			7	16,350	7	16,350	2	412.64	54	80,601.17	56	81,013.81
エンカルナシオン			1	3,969	1	3,969			13	18,270.27	13	18,270.27
イグアスー果樹園	1	47,620			1	47,620	4	115,835.64	1	19,842	5	135,677.04
ピラポー農牧	1	39,365			1	39,365	1	50,614.81	4	36,822	5	87,436.81
フラム農牧	1	39,365	2	47,408.51	3	126,773.51	2	45,653.38	10	103,569.51	12	149,252.51
計	3	206,350	57	241,317.51	60	447,667.51	25	215,970.58	1,275	1,690,077.23	1,300	1,906,050.11

(注) 昭和50年度貸付実績には 上記以外 更生資金貸付 1件 ¥ 1,588- がある。なお 更生資金の期末残高は 6件 US $ 800,352- である。

(ｲ) 進出企業の概要

7. CAICISA（イタプア製油商，株式会社） エンカルナシオン市.

国際協力事業団、海外経済協力基金 及び 日本の八商社（三井、三菱、丸紅、伊藤忠）の出資計6億5千万円により設立された日本イタプア製油投資株式会社の現地会社である。（資本金 3億円） 1969年2月に会社設立、1970年9月より工場操業開始、

イタプア地区綿花 及び大豆の搾油を行う。綿花の年間買付計画は 25,000t ～ 30,000t 日産処理能力 140t で輸出される。

大豆は 約4000t 日産 50t である。

1. ISEPSA（パラグアイ絹糸工業株式会社） アルトパラナ移住地

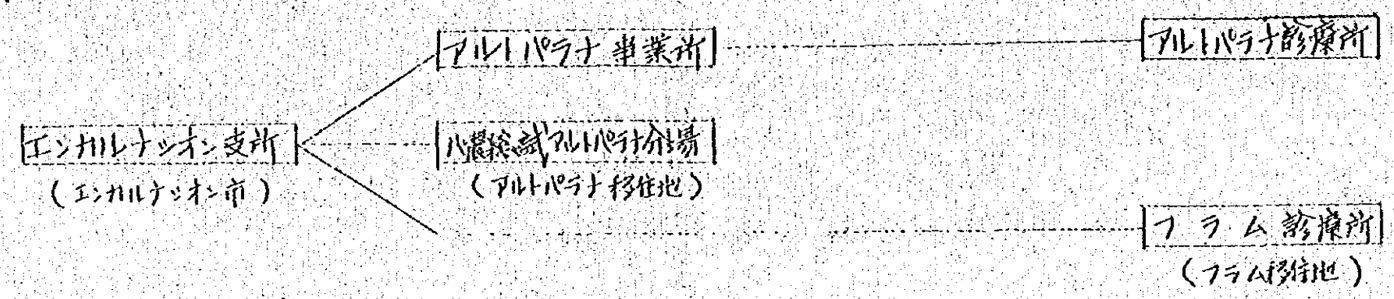
伊藤忠商事（株）の共同出資による乾繭工場を主体とする現地会社で 1969 年会社設立、資本金 66,000,000 Gs,

1972 年2月に乾繭工場が完成し 操業を開始した。これに先立ち 同社並びに事業団指導により アルトパラナ、フラム、チャベス の日本人移住地に桑園が造成され 同年3月より蚕の飼育が開始された。

1973 年9月 ～ 1974年4月 の実績生繭生産約 350t、200 戸の日系人 400戸の八国人農家がこれに参加し パラグアイに於ける新産業としての地歩を着々確保しつつあり 近い将来 これを原料とする製糸工場がエンカルナシオン市に建設される予定である。

4. エンカルナシオン支所組織概要

(1) 組織



(2) 職員数 (1996年7月1日)

	エンカルナシオン支所	フラム診療所	アルトパラナ事業所	八農総試アルトパラナ分場	アルトパラナ診療所	合計
職員数	7	—	6	3	1	17
雇員数	3	5	5	2	7	22
計	10	5	11	5	8	39

(注) 1. 診療所職員は医師 雇員は看護婦、運転手、技術員
2. この他、臨時職員として 看護士 1(現在欠員) 医師 2, 日語教師 1(派遣) 法外 1.
3. 診療所医師は 現在 フラム、アルトパラナとも欠員1となっている。